

播磨町立播磨西小学校

校長 中西 治

夢かがやき ともに学びをきりひろく
心豊かな西っ子の育成

本校は、上記の教育目標のもと、コロナ禍の中でも子どもたち一人一人が毎日楽しく登校できるよう、「ウキウキ・ワクワク・ドキドキ」がいっぱいの学校、笑顔あふれる西小学校づくりを目指して取り組んでまいりました。

【取り組みの成果と課題】

- (1) 学びの保障（国語科の研究の継承と発展）
必然性のある言語活動を位置づけた単元をデザインすることで、子どもたちが学びを深められるようにしました。話し合い活動ができにくい状況の中でしたが、講師の先生を招いての3回の校内研究授業を中心に、研究・研修を継続、発展させることができました。これまでの成果をこれから他教科にも広げていきます。
- (2) 安全・安心に向けた取り組み
新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取り組みを徹底するとともに、もしもの時に備え、火災、地震・津波発生時の避難訓練、さらに教職員による不審者侵入を想定した訓練を実施しました。今後、コロナウイルス対策をしつつ、今年度実施できなかった引き渡し訓練と児童を交えた不審者侵入対応訓練を実施します。
- (3) 笑顔あふれる学校に向けた取り組み
「元気な声と笑顔で挨拶をする」という当たり前のことができにくい中ですが、マスク着用時でも、気持ちの通じ合う挨拶と笑顔のあふれる学校にしていきたいです。



播磨町立蓮池小学校

校長 水野 洋子

主体的、創造的に生きる
「人間力」豊かな子どもたちの育成
～子どもたち一人ひとりの幸せを願って～

本校では、「子どもたち一人ひとりの幸せを願って」を教育目標の根底にかかげ、コロナ禍が続く日々、感染症予防対策を講じながら、「今、できること」「今、しなければならないこと」を中心に、安心・安全で信頼される学校、笑顔あふれる学校をめざし、教育活動を進めてまいりました。

目の前の子どもを大切に、「自ら考え、表現する子」「心ゆたかな子」「たくましい子」の子ども像を常にめざし、誠意をもって取り組みを続けています。

【取り組みの成果と課題】

- (1) 学校生活すべてにおける「は・す・い・け」
「は（話をしよう）・す（進んでしよう）・い（意見を言おう）・け（研究する心・調べる心を持つ）」を全児童の目標としました。自分から取り組む姿勢や気持ちを大切に、できた姿を認めてほめ、蓮池っ子であることを誇りに思う子を育てています。
- (2) 対話を軸とした学習過程の工夫
国語・算数・道徳を中心に、言葉を大切にする土台作りに取り組んでいます。話し合い活動が難しい今年度でしたが、できる範囲で、自分の考えがしっかり説明できる子、友達の意見と自分の考えを比べながらしっかりと聞ける子の育成に努めました。
- (3) 情報発信の充実
学校HPや配布物の充実を図り、情報発信の充実を図りました。



播磨町立播磨小学校

校長 藤原 由香

知・徳・体の調和のとれた児童の育成

本校では、上記の教育目標のもと、「学び 認め合える 子どもたちに」を基本方針として、お互いが尊重しあい認め合える子どもの育成に取り組んできました。

【取り組みの成果と課題】

- (1) コロナ禍にありながらも落ち着いて学べる環境づくり、実態に応じた「わかる授業づくり」「自ら学ぼうとする力の育成」に取り組ましました。
- (2) 自尊感情を高め、自分を大切にすることはもちろん友だちも大切に、お互いが尊重できる心の育成に取り組ましました。
- (3) 子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた支援に取り組むとともに、家庭や関係機関との連携を密に図りました。
- (4) 望ましい食生活を身につけるため、給食指導及び各教科と関連付けた食育に取り組ましました。
- (5) 自ら命を守ること、感染症予防を含め健康を保持していくために自分たちができることを考え、主体的に行動できる態度の育成に取り組ましました。
- (6) 授業研究を行い、学校全体で授業力の向上を行うとともに、情報教育、防災教育等の各種研修を計画的に行いました。
- (7) 感染症予防のため例年通りの学校生活が難しい状況においても、ボランティアの方々（地域）・家庭・行政と連携し、子どもの育成を図りました。



播磨町立播磨南中学校

校長 濱本 宏

社会的自立を目指し、
未来に向かって主体的に生きる力の育成
～南中の“あ・ひ・る”を大切に～

『南中の“あ・ひ・る”を大切に育てていこう』を全校生の合言葉に、「生徒のいるところに教師あり」を全職員の基本姿勢に、みんなが気持ちよく学校生活を送れるように取り組んできました。

【取り組みの成果と課題】

- (1) 学習指導の充実
生徒が主体的に取り組めるような授業研究に努めており、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われています。また、昨年度から2年間の道徳教育の研究指定を受け、道徳科の授業研究に取り組んできました。定期テスト前には、自主的な学習会を実施し、課題をやりきるための支援も行ってきました。
- (2) 学校行事・特別活動・生徒会活動
今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた取り組みが思うように実施できませんでした。3年生の「修学旅行」は11月に延期し、長崎方面に行き先を変更して実施しました。2年生の「トライやるウィーク」も例年通りの取り組みができませんでしたが、11月に海岸沿いの地域清掃活動を頑張りました。1年生は「わくわくオーケストラ」に参加しましたが、スキー教室は残念ながら中止しました。イレギュラーな事が続きましたが、生徒たちは多くのことを学んだと思います。生徒会としては、スローガン『笑顔でつなぐ 南中の輪』を校舎に掲げ、全校生が毎日楽しく学校生活を送れるように取り組んできました。今後もそれぞれの個性を認め合い、尊重し合えるような学級・学年・学校づくりを継続していきたいです。



播磨町立播磨西幼稚園

園長 木村 詳司
藤原かおる遊びや人との関わりを通して、
自己発揮しながら互いを認め合える子に

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の中で、様々な行事が中止や縮小となりました。その中でも、幼児期に経験させておきたいこと、学ばせたいことを職員と話し合い、保育を工夫しながら進めてきました。遊びや人との関わりの中で、相手の思い、よさを伝えたり、互いに受け入れあう姿を認めたりしていくことで、互いの存在を尊重できるように、取り組んできました。今後も、心豊かで意欲的に取り組むことのできる幼児の育成を目指し、努力してまいります。

【取り組みの成果と課題】

- (1) 一人一人の思いを大切に、幼児の表情や動きから気持ちや考えを読み取り丁寧に関わることで、幼児と教師の信頼関係が深まっています。
- (2) 幼児の興味・関心に沿った環境を整えることで、友達と体験を共有したり、話し合ったりしながら試行錯誤を繰り返す姿から、やってみようという意欲的な気持ちが育っています。
- (3) 異年齢児との関わりを通して、共に学びあえる場を設定することで思いやりや憧れの気持ちが育ってきました。
- (4) あきらめずに何度も繰り返して挑戦する姿を認め、自信につなげていくことで、頑張る気持ちが育っています。
- (5) 園での日々の生活の写真を掲示し、子どもの様子を保護者に伝えることで、子どもたちの園生活の姿を知ってもらえるように努めました。



播磨町立蓮池幼稚園

園長 富山 智子

一人ひとりが輝く保育の充実をめざして
～表情・姿・つぶやきから内面を読み取り、
教師の援助のあり方を考える～

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な行事が中止となったりマスク着用となったり、いつもとは違う生活になりました。その中で、状況をしっかりと受け入れながら、一人一人が輝けるように日々の保育に取り組んできました。これからも幼児の内面を探りながら幼児一人一人と丁寧に向き合って保育を進めていきたいと思っております。

【取り組みの成果と課題】

- (1) 幼児の表情やつぶやきなどから思いや考えを読み取り、それを意識して関わることでいろいろな場で自分を発揮できるようになってきました。
- (2) 幼児が輝いている所を教師全員で見つけ、共通理解し、幼児に返していくことで自信につながってきています。
- (3) 様々な経験ができる環境を整えることで、めあてをもって遊びに取り組む姿が見られるようになってきています。
- (4) 異年齢児の良さに気付けるような場を意識してつくることで、互いに刺激を受け合いながら、遊びを進める姿が見られるようになってきています。
- (5) 園内研修や特別支援研修を通して、教師としての専門性を磨き、保育の充実に努めました。



播磨町立播磨幼稚園

園長 久保 朋子

遊びの広がり、人との関わり

本園では、一人一人が自分なりのめあてをもって遊んだり、いろいろな体験を通して様々な感情を味わったりできるように、教師の援助や環境構成を考えながら子どもたちに関わってきました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止により、例年とは違う生活様式や行事のあり方を考える一年となりました。交流することが難しいこともありましたが、改めて人との関わりや実際に体験することの大切さを感じ、今、何ができるのかを考え取り組んでまいりました。

【取り組みの成果と課題】

- (1) 幼児一人一人が体験を通して様々な感情を味わうことができるように、教師の援助や環境構成のあり方を考え、保育に取り組みました。心が動くことで、意欲的に活動に参加する幼児が増えてきました。
- (2) 子どもたちの遊びや生活が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にどのようにつながっていくのかを教師自身が意識することで、ねらいをしっかりと見つめ直すことができました。
- (3) 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、交流が難しいこともありましたが、遊びや生活の中で友達や異年齢児の良いところを伝え合ったり認めたりすることで、人と関わる嬉しさを感じ、人を思いやる優しい気持ちが育っています。
- (4) 保育や特別支援教育などに関する園内研修を通して、幼児の内面を理解したり援助の方法を考えたりし、保育の充実に努めました。



播磨南小学校

校長 中島 誠

夢や希望を持ち、
社会的自立を目指して学び合う
南っ子の育成

本校は、上記の教育目標を掲げ、コロナ禍中ではございましたが子どもたちが充実した毎日をご過ごすことができるよう、様々な感染症対策をしながら日々の教育活動を行ってまいりました。

【取り組みの成果と課題】

- (1) 学習指導の充実
全ての学習の基礎となる「ことばの力」を育成することをねらいとして国語科の研究を進めています。自ら進んで学習に取り組める子、対話の中で友だちと自分の考えを比べながら聞き、自分の考えや思いを進んで表現できる子が増えています。また、1日2回読書タイムを設定したり教師による絵本の読み聞かせをしたりするなど、読書活動の充実を図っています。さらに図書館を使った調べる学習コンクールへの参加も積極的に取り組みました。
- (2) 児童会活動とした自主的な活動の活性化
子どもたちによる、子どもたちのための活動を通して、みんなが気持ちよく生活できる学校づくりに取り組みました。今年は「あたりまえのことがあたりまえにできる学校に」をスローガンに、計画集会委員が中心となって自分たちの学校生活の見直しを全校生に呼びかけました。その中でも、1年間継続して行った「あいさつ運動」が実を結び始め、あいさつをする習慣が定着してきました。日中でも廊下を通ると「こんにちは」の爽やかなあいさつが聞こえてくるようになりました。

